

令和6年度 渋川小学校 学校だより

令和7年3月14日



かしの木 第19号



あれから14年の月日が流れました

東日本大震災から14年という月日が流れました。

多くの犠牲者を出したこの震災。

今もって、行方不明者が約2500名もいるという現実を知ると、この震災が残した傷痕・爪痕の大きさを感じずにはられません。

先日、全校朝会で私の経験談も踏まえて「東日本大震災」について話をしました。

当時、私は3年生の担任をしていました。これまで経験したことのないような大きな大きな揺れが、帰りの会の途中で起きました。長く続く揺れに“このまま揺れは収まるのだろうか…”“これが永遠に続くのではないだろうか”という恐怖と不安を感じたのを覚えています。体育館の天井が落ちたのを横目に校庭に避難しました。校庭から見た学校の周りの景色は、これまで見慣れていた風景とあまりにもかけ離れていました。電信柱が大きく揺れ、周辺のあちこちの家では壁が崩れ落ち、砂埃が舞っていました。

雪がちらつく校庭。着の身着のまま避難した子ども達。ランドセルも上着もないまま、ただただ地震が収まるのを待つしかありませんでした。

恐怖、不安、心細さ、寒さ…。

いろいろな感情がごちゃまぜになって子ども達はずっと泣き続けていました。

そこに、津波、原発事故が重なります。最大観測で26mにもなったという津波。

自分に直接の被害や影響があったわけではありませんが、この震災が震災だけにとどまらず、何か得体の知れないとんでもなく恐ろしいものと対峙しているように感じました。

原発事故では「放射線」という目に見えない恐怖が常に付きまといました。

交通は寸断され、流通は滞り、ライフラインは復旧まで多くの時間がかかりました。

特に車(ガソリン)については、購入制限や品薄状態となり、連日、あちこちのスタンドで長蛇の列ができました。私の通勤も通常の15分から、片道40分程の自転車通勤になりました。

14年…。時は流れました。

震災を経験し、そして今生きている私達から伝えられるのは「命」です。

「命」を大切にすること、「命」をしっかりと守ること。そして、自分の「命」だけでなく相手の「命」も傷付けず大事にすること。

願いは、「優しく、平和な世の中」です。今年も静かに手を合わせました。

〈渋川コミュニティ・スクール〉 -「詩吟教室～Part II～」-

前回（2月28日）に引き続き、5年生が「詩吟」に挑戦です。

1回目は、「詩吟とは…？」からのスタートだったので、講師の先生のリードがなければ抑揚を付けて吟じることができない状態でした。

それでも、今回2回目は、実際に吟じる機会を多く設けていただくことで、子ども達も果敢に挑戦しました。

男女別に分かれたり、地区のメンバーで分かれたり…。少人数でも物怖じせずに頑張って挑戦した子ども達。講師の先生方も子ども達の姿を大変称賛していました。



校長の独り言



いつからだろう…。RUNRUN タイムが終わり、マラソンからなわとびに変わった頃からか…。(そうすると、もう半年くらいになるだろうか) どんなに寒さが厳しかろうが、どんなに吹雪いていようが、毎日登校後、なわとび練習をしている2年生の少年がいる。なわとび記録会が終わった後も「毎日」続けているので、もうこれは、賞や名誉を求めていることではない。ただただ己を磨かんという孤独な修行に励んでいるのである。このなわとび師匠(私はそう呼んでいる)には弟子がいる。日々、入れ替わり立ち替わり師匠のそばで練習に励む。(「師匠、二重とびのコツは何でしょうか?」「うむっ。やはり、リズムよく跳ぶことであらう。手は素早く2回まわす。あとは縄が来たところで跳べば良い。それだけのこと。簡単なことじゃ」「それでは師匠、〇〇は…?」「師匠、〇〇で困っています」…「話す暇があったら練習するべし!」

注)きっと心の中ではそうしたやり取りが行われているのだろうという勝手な私の妄想である。

実際はほとんど会話という会話は無い。「〇〇君(師匠)、はやぶさ跳んでみて!」「〇〇君(師匠)、二重とび競争しようよ」。この程度の会話のみ。後はひたすら、黙々と練習に勤しむ師匠と弟子達の姿があるだけである。師匠は常にすごい回数を跳べているわけではない。ただ、間違いなく、すぐにミスをせず、整ったフォームでコンスタントに回数を跳べるようになっている。子ども達同士が互いに高め合っている。「努力」「継続は力なり」とはまさにこのことだと実感した。

お昼休み、ふらっと体育館に行った。なんとここにも2年生が4名。互いに叱咤激励をしながら、二重とび、あや跳び、かけ足あやにチャレンジしている。「むむっ、師匠の教えがこんなところにも!」 教えが継承されている。ふと、昔、先輩の先生から教えられた言葉を思い出した。教師の仕事で大事なものは「子どもの心に灯をつけること」。「やりたい」「挑戦したい」を引き出すのは授業でも難しいことだが、師匠から次のようなことを学ばせていただいた。①それは魅力あるもの(こと)か②技の習得や自己の成長が実感できるか③安心して失敗できるか④達成感を味わえるか、そして⑤周りであれこれ言い過ぎないということ。「なわとび」…なんと奥が深い! 自分も「なわとび」始めようかな…。(まずは縄を買うことから始めないと!)。思い立ってもうすでに数ヶ月…。